

健康・安全

「健康と安全」は企業の社会的責任の一つであり、円滑な企業活動を行うための重要な課題です。社員やお客様をはじめ、企業活動にかかわるすべての人々の健康と安全に配慮した取り組みを推進しています。

すべての人々の安全を守るために

東京エレクトロングループは、社員やお客様をはじめ、企業活動にかかわるすべての人が安全に働き、安全に製品を使用し、そして健康であることが企業の社会的責任の一つであると考えています。

2006年度は、2005年度に実施した経営層向けの安全研修に続き、中間管理職向けの安全研修を開催しました。受講対象者は各部の部長、課長、グループリーダーなど管理職従事者で、事例実習のディスカッションの時間を含んだ内容となっています。

現場作業リーダー向けのTRM（チーム・リソース・マネジメント）も2005年度に引き続き開催しています。この教育では、普段何気なく行っているコミュニケーションやチームワークが、実は非常に重要なことだと気付いてもらうことを目的の一つとしています。また、各地区ではAED（自動体外式除細動器）を設置しており、この取り扱いを含めた救急救命講習会も実施しています。



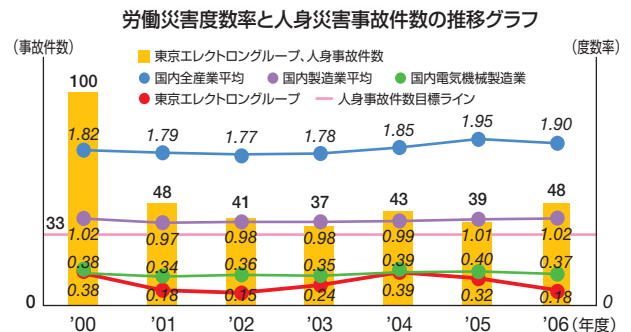
◀ 救急救命講習会の様子

人身災害事故の管理

当社グループ全体の労働災害度数率は、2006年度は2005年度に比べ低下しました。しかし、生産量が増加し作業が増えたことに伴い、応急処置を除く人身事故災害の件数は増加しています。

当社グループの事故傾向統計では、人間工学的な要因*およびオフィスで発生した事故が全体の約30%を占めるとの結果がでています。人間工学的な要因は、装置の大型化や複雑化に伴い、無理な姿勢での作業や重量物の取り扱いなど、従来の装置にはないリスクが発生しています。この対策として、2006年度に人間工学に関する教育を実施しました。（次ページ参照）

*人間工学的な要因：長時間にわたる身体への作用が引き起こす、筋骨格系障害の要因。重労働、反復動作、不自然な姿勢など。



* 事故件数は2000年度を100とする

* 労働災害度数率：100万延労働時間あたりの労働災害件数、休業4日以上の災害発生件数÷延実労働時間×1,000,000



東京エレクトロングループの山梨、府中、赤坂の安全衛生委員会において、産業医としてご指導いただいている高橋先生に、健康・安全活動についてコメントをいただきました。

産業医 医学博士
労働衛生コンサルタント
高橋 英尚氏

東京エレクトロングループでは、現在注目されている「過重労働」「メンタルヘルス」「メタボリックシンドローム」のそれぞれについて、社員が安心して健康で働けるよう、健康管理体制の強化に努めています。そのためには、産業保健スタッフの役割とともに管理者の役割が重要と考えています。

東京エレクトロングループの業務では、半導体製造固有の特

殊なガスや薬液が使用され、作業方法にも特異性があります。これらに対して、会社は従業員の安全の確保と作業環境の整備を行うことが重要です。従業員の仕事時間や負荷の平坦化についても、上長のマネジメント意識を高める必要があることから、上長の意識改革を促す研修を実施し、職場におけるラインケアを充実させるよう配慮しています。

産業医として期待することは、社員一人ひとりが心身の健康の保持増進に対する意識と自覚を持ち、会社全体として安全で快適な職場環境づくりを図ることであり、今後も社員の健康管理を着実にレベルアップさせていきたいと思っています。

人間工学的対応の推進

【エルゴノミクス*基礎トレーニング】

近年、人間工学的な事故は増加傾向にあり、この対策として2006年度にエルゴノミクス基礎トレーニングをWEB上で実施しました。

この教育では、人間工学を取り巻く環境、人間工学的要因による事故事例、MSD (Musculoskeletal Disorders,筋骨格系障害)の症状とリスク要因、人間工学的な事故削減のために、などの項目で構成され、理解度確認のテストも行われます。この教育を通じて、不自然な姿勢や力、重量物、繰り返し作業などの要因により事故が発生するということと、これら

の障害を防止するために設計者や作業者が普段から考慮すべきことを学びます。



▲▶
WEBを用いたエルゴノミクス
基礎トレーニング



※エルゴノミクス：「人にとっての使いやすさ」という視点。人間工学。

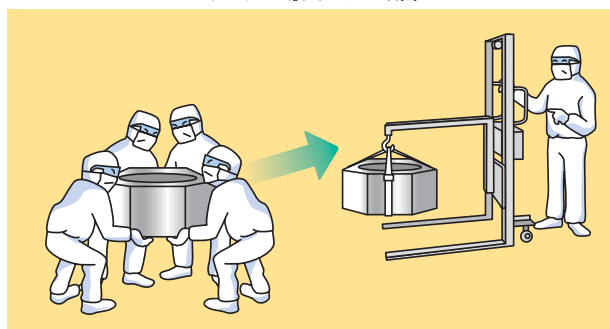
【人間工学的対応事例】

重量物作業の人間工学的リスク低減

製品の大型化に伴い、取り扱う部品類の重量も増加しています。これら重量物を取り扱う際、持ち上げる高さや取り付け箇所により、作業者の身体への負担も大きく変わります。当社グループでは、これら重量物の取り扱いの際の人間工学的事故の防止として様々な対策を行っています。

一例として、エッチングシステムでは、従来約70kgのチャンバーを4人で持ち上げて交換していました。しかし、人間工学的事故の発生やチャンバーを誤って落としてしまうこと、さらには持ち上げている際に他の部品などを踏みつけてしまうことの対策として、専用リフターを設計・製作し、この作業に導入しました。このリフターを用いることにより人間工学的な視点からのリスク低減だけでなく、作業人員を少なくすることもできました。

リフター導入による改善



TOPICS

バーチャルリアリティや3D映像を用いた安全教育

従来から、クリーンルーム内の作業における事故事例の再現写真や絵を用いた安全教育、危険体験学習などを行っていましたが、今回株式会社ソリッドレイ研究所の協力をいただき、バーチャルリアリティ(VR)や3D立体映像技術を用いて、クリーンルーム内における事故事例を映像化しました。この映像技術により、安全教育内でのよりリアルなケーススタディの題材を作成したり、普段クリーンルームに入ることのない従業員への状況説明や危険意識の向上を行うことができます。

今後はさらに事例映像を増やしていくこと、また行動選択形式を利用したロールプレイング感覚での教育コンテンツ作成などを検討しています。



▲▶
VRや3Dを用いた教育映像